



齋藤幸平

水野和夫

さいとう こうへい・大阪市立大学大学院経済学研究科准教授(経済思想、社会思想)。1987年生まれ。ベルリン・フンボルト大学哲学科博士課程修了。『大洪水の前に』でドイツチャー記念賞を日本人初、歴代最年少で受賞した。

みずの かずお・法政大学教授。1953年生まれ。埼玉大学大学院経済科学研究科博士課程修了。内閣官房内閣審議官などを経て現職。専門は現代日本経済論。著書に『資本主義の終焉と歴史の危機』(集英社新書)など多数。

2021年
希望
に向かって

コロナ禍、気候変動への切り札を語る

資本主義を終わらせれば 豊かな社会がやってくる

脱成長経済を説いた『人新世の「資本論」』(集英社新書)が8万5000部を突破し、話題を集めている。私たちはどのような経済、社会を目指すべきなのか。そのためにはなにが必要なのか。著者の齋藤幸平さんと、「資本主義の終焉」を説く水野和夫さんが語り合う。

齋藤 新型コロナウイルスによるパンデミック(世界的大流行)が全くおさまるようにはみえませんが、ただ、もっと大きな問題、気候変動のことを忘れてはなりません。

気候変動をこのまま放置すれば、先進国といわれる日本でも多くの人が困窮するでしょう。まして発展途上国の貧しい人々には水不足や食糧危機が襲いかかり、海面上昇で住んでいる土地を奪われる危険性があります。ただし、ごくごく一部の超富裕層は今まで通りの生活を送るかもしれない。資本主義の矛盾がさらに大きく現れてくるでしょう。

1991年のソ連崩壊以降、30年近く、選択肢は資本主義しかない。私たちは思い込まされてきました。けれども、なんでも吸収し地球全体を商品化しようとする資本主義にブレーキをかけなければなりません。資本主義こそが、気候変動をはじめとする環境危機を引き起こした犯人だからです。それから、言うまでもなく、大きくなるばかりの貧富の格差の原因も資本主義です。

ですから、資本主義から脱すると、じつは、豊かで平等で自由で潤沢な社会が実現する可能性が開けてきます。

思考実験にすぎないとの批判はあるでしょう。しかし思想の力で、